

▽日蓮聖人ご入滅七〇〇年をめざす日蓮宗にとってもっとも大切なことは、△教化中心の宗門▽をきざぎあげ実動していく点にあります。法華経と日蓮聖人の教えと生き方を弘めていくことによつてこそ△日蓮▽宗たりえるのは当然のことです。しかし「伝道宗門」といわれながら、なおその内実は実践的にも組織的にも財政面においても充分であるとはいえないのが現実です。△内に教化本位の教団づくり▽をめざし、△外に日蓮聖人の示された立正安国と報恩の教えを伝える▽という教団の根本的あり方と独自性をうちだすことはまさに日蓮聖人からうけた恩徳に報じる道といえます。

▽△教化する報恩教団の確立▽という問題視角から、本号では「教化研究会議」の成果をふり返り「教化と報恩」の内容を再吟味していく試みを行いました。さらにこれまでの教団の歩みを再検討するため、現在の日蓮宗の原点ともいべき飯高榎林の資料内容を掲載しました。これは近世以来の教育と教化の歴史的姿を考えつつ、教化と報恩の教団づくりをこれから推進していくための鏡の一つにしようとする姿勢にもとづくものです。

▽前号「恩の構造」は、七百遠忌報恩の内容を明確にうち

出した先見の意味をもちました。この趣意にもずいて遠忌布教が実施されるに至っています。本号は恩の構造の内容をさらに教化と関連づけ、教団再生を考える論文をまとめたものです。ひき続き活用していただければ幸いです。

▽影山先生には講述テープからの記述にも目を通して下さり、心よく掲載をご承諾いただきました。近代布教史の研究を総論したもので、心からお礼申し上げます。また藤井師からも貴重な教団史研究の基礎資料を紹介していただき感謝いたします。

▽研究ノートは、いずれも資料紹介を中心にしたもので、これからの考察に期待していただきたいと思います。

▽本誌は、研究面から教化実践の資料として発行することをめざしていますので、大いに活用・活字して下さい方がたいと思います。

△石川康明▽